

ひなた、ありがとう

## 早半年…

みなさん、こんにちは。

昨年7月13日にレッサーパンダのひなたくんが虹の橋を渡って半年近くが経過しました。

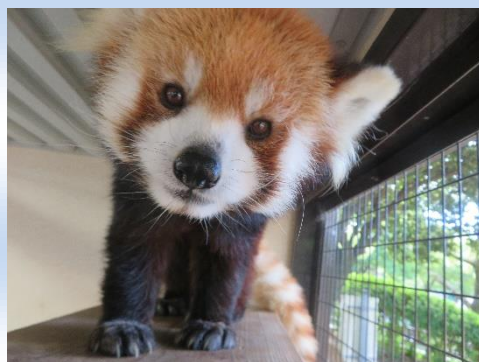


2020年から担当になりひなたくんの笑顔に癒され、相思相愛になったかと思えば…



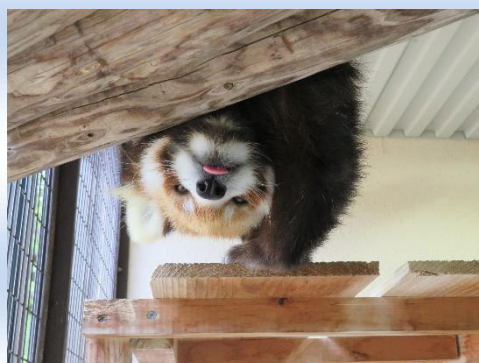
ひなたくんは餌のバケツを持ってくる私が好きなだけでした。

たった3年程でしたが、ひなたくんは私にレッサーパンダの可愛さ、魅力をたくさん教えてくれました。



カメラを向ければグイグイやってきて、カメラのピントを合わせるのが大変でした。

カメラを向けていないときはどんな姿勢でキラキラビームを送ってきました。



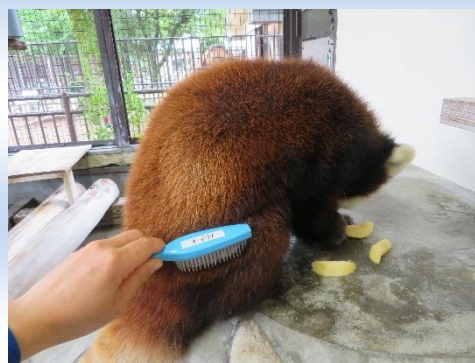
それこれも飼育員に対するものではなく大好きなリンゴの為、と言うことは言うまでもありませんが…。

ひたなくんの最大の特徴はイケメンの自覚がある愛嬌満点の表情は当たり前として、もう一つの特徴がこのフカフカの毛と尻尾。



寒い地域の動物であるレッサーパンダがフカフカな毛と言うのは当たり前ですが、日本の夏にフカフカの毛は厄介なものです。

そこで暑さ対策にブラッシングが良いと聞いたので始めてみました。



警戒するため好物のリンゴを食べている間にしました。

毎日ブラッシングで大量の抜け毛が発生しました。



一体どれだけ毛を蓄えていたのやら…

これで夏は幾分か涼しく過ごせるかと思っていたら…



案の定例年通り、冷房の効いた部屋ではなく屋外の上の板で暑い～、と言いながら過ごしました。涼しい部屋も用意していましたが、なぜかほとんど活用されず…。

その他のひなたくんの特徴が

両手を使って食べる食べ方。



左手の甲に乗せてリンゴを食べつつバケツは離さない徹底ぶり。



両手は汚れますが問題なし!!  
ですが、時々食べないときも…



見た目は若々しく童顔オジサマ系で通っていましたが、ひなたくんはなかなかいい歳であったこともあり、定期的に腹痛に襲われ好物のリンゴを食べられないことが見られました。そこで、ひなたくんにとっては不満だったでしょうが、好物のリンゴを減らし、嫌いな笹を食べてもらうように変更しました。

名付けて「レッサーパンダはレッサーパンダらしく主食の笹を食べましょう作戦!!」



笹は残しました…。やっぱりね。朝に確認に行くと、綺麗に笹を残して、いつものキラキラビームでリンゴの催促。今まで残しまくっていたペレット(草食専用のカリカリ)は食べるのに、笹を残す徹底ぶり。そんなに笹が嫌いかな…

違う日も残しました…。



残して朝の展示場でもらえるリンゴを期待して扉の前で待つひなたくん。飼育員の作戦で何とか腹痛の頻度は下がりました。やっぱりレッサーパンダはレッサーパンダらしく笹が体に合っていたようでした。

次は体力向上。



施設的に運動量が少ないのでフーダーを活用して足腰を鍛えました。



リンゴパワー恐るべし。年齢を重ねてから運動量アップするとは…。

そして、週一回の体重測定。



リンゴの量が減った分、多少の減量はありましたが、体調はよさげでした。

腹痛も減り、笹も少しずつ食べて(正しくは誤食?)して、順調に年を重ねていくと信じていました。

2023年の1月下旬、臨時休園になるほどの大雪の日もいつもと変わらず元気でした。雪でルンルンになったのはひなたくんより飼育員だったりしました。



花より団子ならぬ、雪よりりんごのひなた。

そして、鬼門となる夏を迎えるころには無事に14歳を迎えました。



見た目の若さに騙されず、より一層の健康管理をしていこうと思っていたのに…

週一回の体重測定を実施し、朝のりんごも食べあげ、いつもの一日がいつものように流れると思っていた矢先、その日の午後に多くの飼育員に見守られる中、虹の橋を渡りました。

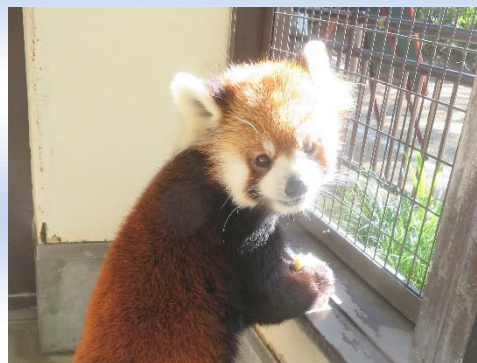
その後はひなたくんに対していろいろなお供えをありがとうございました。



訃報の翌日からお供えを頂きました。

暫くお供えさせていただいた後にミホちゃんや当園の動物たちに給餌させてもらいました。今でも月命日にお供えを頂くことがあります。また、遠方からも来園される方もいました。ひなたくんがいなくなってから、さらにひなたくんの偉大さを知り、どれだけの人たちに愛されていたかを実感しました。

ひなたくんから学んだこと、反省点を精査して今後のミホちゃんに活かしていきたいと思います。



突然のお別れと言う形での最期になってしまったことは申し訳ありませんでした。本当にひなたくんのことを愛していただけ、ありがとうございました。こんなに愛されたレッサーパンダはひなたくんの他に知りません。

ひなたくんはとっても幸せなレッサーパンダだったと思います。



ひなたくん、ありがとう。

飼育員 なか